

# 薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！  
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2024年  
1月13日  
第159号



## アリドオシ (アカネ科)

園内中央の通路、温室よりも奥まで進むと、西側に赤い果実を実らせた常緑低木が並んでいます。その中で一番北側にあるのがアリドオシ、別名イチリョウ（一両）です。和名の由来は、葉の付け根にある棘がアリを貫き通すから、または刺が多数あってアリののような小さい虫でないと通り抜けられないから。関西地方では、正月の縁起木として「千両、万両、アリドオシ」などの言い回しがありますが、その並びで奥に植えてあるマンリョウ、センリョウと比べると、果実の付き方は確かに地味です。全草または根がコシ（虎刺）という名の生薬となり、中医学では祛風利湿、活血止痛を目的に、痛風、リウマチの痛み、黄疸、月経困難症、小児の疳積、蕁麻疹、打撲傷などに利用するそうです。

## フツキバナ (シソ科)

温室内で花が咲いています。南アフリカ原産の落葉低木で、シソ科らしく葉にショウガのような芳香があります。和名の由来は、冬に白い花を咲かせ、風で花が吹雪のように見えるからとか。南アフリカでは、葉や新芽を民間薬として、咳、マラリア、発熱、腹痛、下痢、デング熱、頭痛、歯痛などに対して利用するそうですが、日本や中国ではもっぱら鑑賞用です。葉から得られる精油はオレンジ色で、さまざまなテルペノイドに属する化合物を含んでいて、抗酸化活性、鎮痛活性、抗菌活性、抗寄生虫活性が報告されています。